

平成 29 年 9 月 6 日 (水)  
愛知県美術館  
担当 長屋、副田  
電話 052-971-5511 (代)  
内線 331、332  
愛知県県民生活部文化芸術課振興グループ  
担当 足立、辻本  
内線 2462、2460  
電話 052-954-6183(ダイヤルイン)

愛知県美術館 木村定三コレクション  
こうらいきょうか  
高麗鏡架、初公開！

展示期間：平成 29 年 10 月 6 日 (金) - 11 月 19 日 (日)

愛知県美術館では、著名な美術収集家、故木村定三氏及びその御遺族から寄贈された 3,000 件を超える作品・資料（木村定三コレクション）の調査を順次進め、公開をしています。

この調査を進める中で、こうらいてっちきんぎんぞうがんきょうか《高麗鉄地金銀象嵌鏡架》が、およそ千年前の朝鮮半島でつくられた、きわめて希少な工芸品であることが判明しました。

この作品を、10 月 6 日 (金) から開催するコレクション展にて初公開するとともに、「幻の茶入れ」などの名品の数々も、併せて展示いたします。



こうらいてっちきんぎんぞうがんきょうか《高麗鉄地金銀象嵌鏡架》 高麗時代前期 (11 世紀)  
たん鍛鉄地に金銀象嵌、ブロンズ飾金具  
総高 56.4 cm 本体高 51.7 cm 奥行 31.4 cm

「鏡架」とは、化粧をする際に鏡を掛けるための道具です。大小二つの支脚を X 字状に交差させた高麗時代 (11 世紀) の鏡架は、現在は韓国に数例しか残されていません。本作品は、文様の表現等から現存例の中でも最も古い時期ものと考えられます。

こうらいてっちきんぎんぞうがんきょうか

## ●高麗鉄地金銀象嵌鏡架の魅力

本品には、鉄の棒に線や面で文様を彫り込んで、そこに金銀をはめこむ、鉄地金銀象嵌という技法が用いられています。その技術水準の高さから、本品は高麗の宮廷が直接管理した工房により製作されたものと思われます。また、高麗宮廷は当時仏教文化の強い影響下であり、本品の文様意匠にも、仏教的な要素を色濃く見ることができます。秀逸な技術によって多くの工芸品を生み出したことで知られる高麗王朝文化の特徴を、よく伝えている優品であるといえます。



## ●同時に展示公開される木村定三コレクションの名品



《<sup>ちやいれ</sup>茶入 <sup>めい</sup>銘 <sup>やえがき</sup>八重垣》は、茶道・石州流の祖である大和小泉藩主・石州公（片桐貞昌 1605-1673）愛用の品として、茶会記録に頻出する名品です。この茶入は長い間所在が分からず、「幻の茶入」とされていました。

しかし、近年の調査により、木村定三コレクションの中の陶製の壺が、この「幻の茶入」である可能性が高いことが判明しました。



この<sup>かや</sup>櫃の<sup>つげ</sup>将棋盤と黄楊の駒は、1950年代に第13期名人戦（大山康晴名人対升田幸三八段）、第14期名人戦（大山康晴名人対高島一岐代八段）、第15期名人戦（大山康晴名人対花山元司八段）などの名だたるタイトル戦で用いられたものです。

## ●展示期間

2017年度第3期コレクション展

木村定三コレクション 深奥をさぐる vol. 3 「高麗鏡架、初公開」

会場：愛知県美術館 10階

会期：2017年10月6日（金）—11月19日（日）

開館時間：10:00—18:00 金曜日は20:00まで（入館は閉館30分前まで）

休館日：毎週月曜日（ただし10月9日（月・祝）は開館）、10月10日（火）

一般500（400）円 高大生300（240）円 中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

<同時開催> 「長沢芦雪展 <sup>みやこ</sup>京のエンターテイナー」 チケットをお持ちの方は無料でご覧いただけます。